

軌道構造境界部における軌道沈下対策の効果比較

村本勝己 櫻井祐

接続軌道等の直結系軌道とバラスト軌道との境界部においては、軌道変位が局所的に不連続となって浮まくらぎが発生しやすいことはよく知られている。筆者らは、軌道構造境界部の局所的な軌道変位対策として、道床が沈下しても軌道変位を抑制できるAICS（自動沈下補正まくらぎ）を用いた軌道構造（図）を提案し、開発を行っている。

本報告において、筆者らは、AICSおよび弾性まくらぎを用いた実物大軌道模型を用いた繰返し载荷試験を行い、軌道構造境界部に発生する浮まくらぎの抑制効果について各対

策法の効果について比較検証を行った。その結果、AICSを使用した軌道では顕著な浮まくらぎ抑制効果が確認され、弾性まくらぎを用いた軌道にも一定の軌道沈下抑制効果が確認された。（鉄道総研報告、2012年2月号）

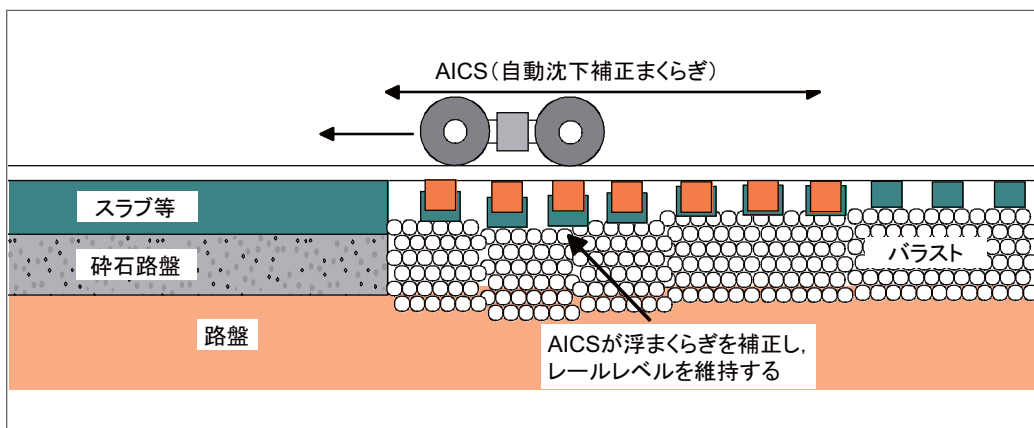


図 AICSによる浮まくらぎ防止の原理